

平成 30 年度東京都手話通訳者等養成講習会
手話指導者養成クラス（中途失聴・難聴者向け手話指導）
受講生選考試験・一次試験筆記問題

1 次の文の正しいものは○、間違っているものには×をつけてください。

- (1) 第 24 回全国中途失聴者・難聴者福祉大会は、2018 年、新潟県で開かれる。
- (2) 1999 年、厚生労働省により、要約筆記者養成カリキュラムが通知された。
- (3) 日本で「障害者福祉」と名のつく法律が初めて制定されたのは、1954 年の身体障害者福祉法である
- (4) 2010 年、第 21 回国際ろう教育会議で、ろう教育における手話の使用を禁じた 1880 年ミラノ会議の決議が却下された。
- (5) 東京都の中途失聴・難聴者のための手話講習会が開講されたのは 1975 年である。その年に東京都中途失聴・難聴者協会が設立された。

2 次の文の（ ）に相応しい語句、または数字を下の「ア～ト」の中から
選び文を完成させなさい。

- (1) （ ① ）が 2002 年 4 月から中途失聴・難聴者のための手話講習会、応用クラス I・II クラスを開講した。
- (2) （ ② ）年 3 月、TBS テレビのドラマで（ ③ ）の CM に始めて字幕がついた。現在は花王、東芝、キャノンなど 10 社以上の会社が字幕付き CM を行っている。
- (3) 補聴器は、その個人の聞こえにくさに合わせて（ ④ ）や（ ⑤ ）を調整し耳に音を届けるものである。このことを（ ⑥ ）という。また、補聴器は（ ⑦ ）である。
- (4) （ ⑧ ）は（ ⑨ ）が 1971 年、（ ⑩ ）で発表した口話と手法を併用した言語指導法である。

ア=2010 年 イ=支援機器 ウ=NPO 法人東京都中途失聴・難聴者協会 エ=日立
オ=周波数 カ=全国ろうあ者大会 キ=パナソニック ク=読話
ケ=医療機器 コ=キュード法 サ=音量 シ=2007 年 ス=音質 セ=マッピング
ソ=大阪市立聾学校 タ=東京都 チ=同時法 ツ=全日本聾教育研究大会
テ=栃木県立聾学校 ト=補聴援助システム ナ=フィッティング

3 下に挙げた器官はどのような働きをしていますか。 四角の中から当てはまるものを選び、記号で答えてください。

- (1) 半規管
- (2) 蝸牛
- (3) 耳小骨
- (4) 聴神経
- (5) 鼓膜

- ア. 電気信号を脳に伝える
- イ. 鼓膜の振動を内耳に伝える
- ウ. 集音を行う
- エ. 音波を受けて振動する
- オ. 体の平衡を保つ
- カ. 鼓膜から伝わった振動を電気信号に変える

4 (1) ~ (5) に関係するものを右の四角の中から選び、記号で答えてください。

- | | | |
|---------------|------------|-------------|
| (1) WHO | ア.国際連合 | イ.国際障害同盟 |
| (2) I F H O H | ウ.国際生活機能分類 | エ.日本障害フォーラム |
| (3) J D F | オ.国際難聴者連盟 | カ.世界保険機構 |
| (4) W F D | キ.世界ろう連盟 | ク.国際障害分類 |
| (5) I C F | ケ.世界難聴者連合 | コ.世界保健機関 |

読み取り 1 問 「人工内耳について」

日本で最初に人工内耳の手術が行われたのは 1980 年、大分県在住の男性でした。それから今までに 1 万人程度の人たちが手術を受けています。手術は 1 歳から受けることができます。大人よりも子供の脳のほうが人工内耳の音への対応が早いとも言います。人工内耳は補聴器と違って、後頭部体外に取り付けたマイクから入力された音を直接内耳に送って聴神経に伝えられるため、音を伝えやすくなり、高い音も聞こえるようになります。

しかし、人工内耳の手術を受けても聞こえていた時と同じように聞こえるわけではありません。

初めはロボットが話しているように聞こえますが、脳がその音に適応してくると不自然な音に変わりはないがコミュニケーションに有用な道具となります。

手術を受けた人たちはそれまで聞こえなかった鳥のさえずりや電子レンジの音、数人との会話の聞き分けなどができるようになる人もいます。

人工内耳は耳の聞こえを改善するためだけではなく、聴覚障害者の生活を支えるためにあります。

問題

1. 日本で初めて人工内耳の手術が行われたのはいつ？
① 1990年 ② 1980年 ③ 1970年
2. 日本で初めて人工内耳の手術を受けた人の在住の県はどこですか？
① 栃木県 ② 大分県 ③ 山形県
3. 手術は何歳から受けられますか？
① 1歳 ② 2歳 ③ 4歳
4. 補聴器と違うところは何ですか？
① マイクから音を直接、内耳に送って聴神経に伝える
② マイクから音を直接、聴神経に伝える
③ マイクから音を直接、脳に送る
5. 手術後の聞こえの状態はどうなるか？
① 初めは霧がかかったように聞こえる
② 初めは宇宙人が話しているように聞こえる
③ 初めはロボットが話しているように聞こえる

読み取り 2 問 「聴導犬」

聴導犬は欧米と比べて日本はとても少ないが、日本聴導犬協会は無償で貸与しています。保護され殺される運命の犬を引き取り聴導犬としての訓練しているが、最後の試験に合格できず聴導犬になれなかった犬たちがいて、里親として出す制度があります。聴導犬の訓練には少なくとも1年半はかかり、一頭あたり約200万円のコストがかかるが、寄付などによって無償で貸与している。訓練や試験は聴導犬の歴史が深いアメリカやイギリスのノウハウが基本にしていますが、身体障害者補助犬認定試験は基準が厳しく不合格となる犬が少なくない。その犬たちを引き取ってくれる新・家族（里親）が多くあれば、聴導犬としての可能性のある多くの犬の訓練に取りくむことができる。里親は聴導犬の普及に欠かせない存在です。里親制度に申し込むと里親募集犬とのお見合いがあり、ここで決めた犬を預かることとなります。ですが、日本聴導犬協会は犬を預けた1か月後に改めて里親を尋ねて犬を飼う資格があるかをチェックし、NGとなった場合は犬を連れて帰ることとなります。日本聴導犬協会の目標は保護され殺処分される運命の犬を救い、聴覚にハンディのある方のかけがえのないパートナーとなるよう育てることですが、聴導犬として不合格になった犬も守っているのです。

問題

1. 聴導犬に適さなかった犬を守る制度は何ですか？
①里親制度 ②登録制度 ③保護制度
2. 訓練等のノウハウの基本としている国はアメリカとどこですか？
①スウェーデン ②ドイツ ③イギリス
3. 訓練後に受ける試験の名称は何ですか？
①補助犬認定試験
②身体障害者補助犬認定試験
③身体障害者介助犬認定試験
4. 里親は誰でもなれますか？
①誰でもなれる
②飼う資格があると認められた人だけ里親になれる
③補助犬とお見合いして気に入った犬がいた場合は里親になれる
5. 日本聴導犬協会の目標は何ですか？
①保護され殺処分される運命の犬を救い最後まで見守ること
②保護され殺処分される運命の犬を訓練して聴覚に障害がある人に貸与すること
③保護され殺処分される運命の犬を救い、聴覚にハンディのある方のパートナーとなるよう育てること